

1 甘藷の売り上げ増へ JA大束とアオイファームが事業連携



事業連携合意書を締結したJA大束の渡邊組合長(左)、アオイファームの池田会長(右)

本市の特産品である甘藷^{かんしょ}の売り上げアップを図ろうと、「JA 串間市大束」と市内に本社を置く農業法人「株式会社くしまアオイファーム」は事業連携合意書を締結し、市長に事業連携を報告しました。合意書の連携分野は、共同で畑での一斉防除などの基腐病対策や甘藷生産の持続可能な取り組みなど全4項目となります。JA大束の渡邊博康組合長は「この連携が串間の農業を守り、生産農家の所得確保につながるよう共に頑張っていきたい」、アオイファームの池田誠会長は「お互いが歩み寄り関係を構築して、地域へ利益を還元できるよう連携していきたい」と話していました。

2021年度から30年度までの本市のまちづくりの指針となる「第六次長期総合計画」の策定に向けて、諮問を受けていた市総合計画審議会は、市長に答申を行いました。本市は昨年12月、10年後の将来像を描いた「基本構想」と、前半5年間の具体的な施策や数値目標を盛り込んだ「前期基本計画」を、有識者などでつくる同審議会に諮問し、議論を重ねてきました。答申では、地域課題を、地域が本来有する役割などを発揮して自ら解決する「地域連携組織」の明記や、自然エネルギーを地域振興に役立てるなどの意見がありました。計画は答申に沿って修正され、3月定例会市議会に提案されます。

1 市民主体のまちづくりを 本市長期総合計画答申



答申を行った審議会の丹生見隆会長(中央)と渡邊博康副会長(右)

2 せとかジューシー 市内児童が学校給食で旬の味覚を楽しむ

日南、串間の特産品である「せとか」を味わってもらおうと、市内小中学校の給食で提供がありました。本市の地元食材の理解を深めてもらう食育の一環で、都井地区のかんきつ農家である石上雄士さんが生産したせとかを提供。都井小学校では、石上さんが児童に「串間にはおいしいものがたくさんあることを知ってもらい、郷土愛がもっと育ってくれたらうれしい」とあいさつし、その後の給食で児童は、旬の幸を堪能していました。6年生の田中楓恋^{かづな}さんは「他のみかんよりもジューシーで甘くておいしかった。地元でこんなにおいしいものを作っているのを知れて良かった」と笑顔で話していました。



せとかは「みかんの大口」とも呼ばれ、果肉が非常にジューシーで濃厚な味が特徴です

22 市木小で火災発生時の避難対応を確認する火災訓練実施



駆け足で運動場へ避難する児童

市木小学校は、児童に火災発生時の避難の仕方を身に付けてもらおうと火災避難訓練を行いました。訓練は理科室から出火したと想定。非常ベルが鳴り、校内放送後に全校児童らは駆け足で校舎を出て、1分30秒で運動場に避難を完了しました。その後市消防団市木分団の成田一志分団長の講評や消防車両、災害時に使用する応急対策資機材の説明のほか、同分団隊員による消防操法の披露などもありました。6年生の酒井蒼羽^{あおば}くんは「無言で落ち着いて避難できた。消防団員の操法もかっこよかった」と話していました。

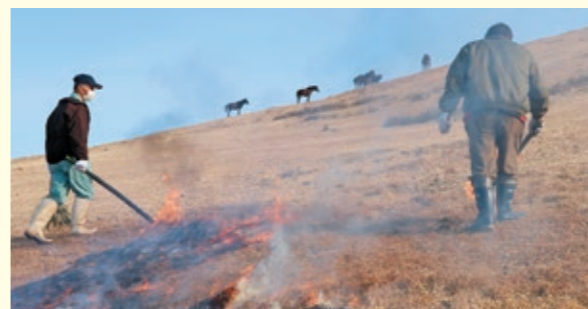
29 医療従事者へ感謝の気持ちを いこいの里が市民病院に特製弁当贈呈

串間温泉いこいの里は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、昼夜を問わず医療の第一線で働く串間市民病院の医療従事者へ感謝の気持ちを送ろうと、唐揚げやトンカツなど全6種類の特製弁当100食を贈呈しました。贈呈式は同病院で行われ、いこいの里の野口健一支配人から江藤敏治院長へ弁当を手渡しました。江藤院長は「感謝の気持ちでいっぱい。かみしめながら食べたい」と謝辞。野口支配人は「感謝の気持ちを届けたく今回企画した。今後も何らかの形で応援していきたい」と話していました。



贈呈に対して江藤院長より感謝状の贈呈もありました

31 都井岬で春を呼ぶ 恒例の野焼き



新芽は早ければ3月上旬にも芽吹き始め、月末ごろから岬馬の出産シーズンを迎えます

国の天然記念物に指定されている野生馬の「岬馬」が生息する都井岬で、春を呼ぶ毎年恒例の野焼きが行われました。野焼きは、岬馬の餌となる芝の新芽の生長を促すとともに、ダニなどの害虫を駆除するための伝統行事です。都井御崎牧組合の組合員ら約30人が参加。軽油をしみ込ませた布を詰めた竹の棒を使って枯れ草に火を付けると、パチパチと音を立てて燃え広がり、岬馬たちは煙を避けようと草原をあちこち移動していました。同組合の諏訪英顕組合長は「1年の始まりであり、春が来たという感じ。昔からの伝統行事なので今後も守っていきたい」と話していました。